

(4) 主要復原施設の概要

1) 東院庭園

1-7) 概要

1967 年 (S42 年)、平城宮東側の張り出し部の南東隅に大きな庭園の遺跡が発見された。この場所は「続日本書紀」にみえる「東院」にあたることから「東院庭園」と名付けられた。

東院庭園は東西 80m×南北 110mの敷地の中央に、複雑な形の汀線を持つ東西 60m、南北 60mの南からみて逆L字型の州浜敷きの池を中心に構成されている。自然の風景を主題とした平安時代以降における庭園の原型ともいわれている。

【後期東院庭園の特色】

東院庭園は東西 60m、南北 60mの南から見て逆L字形の池を中心に構成されています。池の西岸には中央建物に付属する露台が水面に張り出し、露台から東岸には橋をかけています。池の北端には築山石組、西南部には中島があつて、それぞれ庭園景観の焦点となり、屈曲する出島の先端部には景石が配されています。池底から岸边にかけて緩やかな勾配で小石を敷き詰めた洲浜が、出入りのある汀線をかたちづくっており、奈良時代の優美な庭園の様子がしのべれます。

資料：パンフレット「平城宮 東院庭園（奈良国立文化財研究所 1998）」



図 I - 11 東院庭園整備全体図と後期東院庭園の模型

資料：パンフレット「平城宮 東院庭園（奈良国立文化財研究所 1998）」

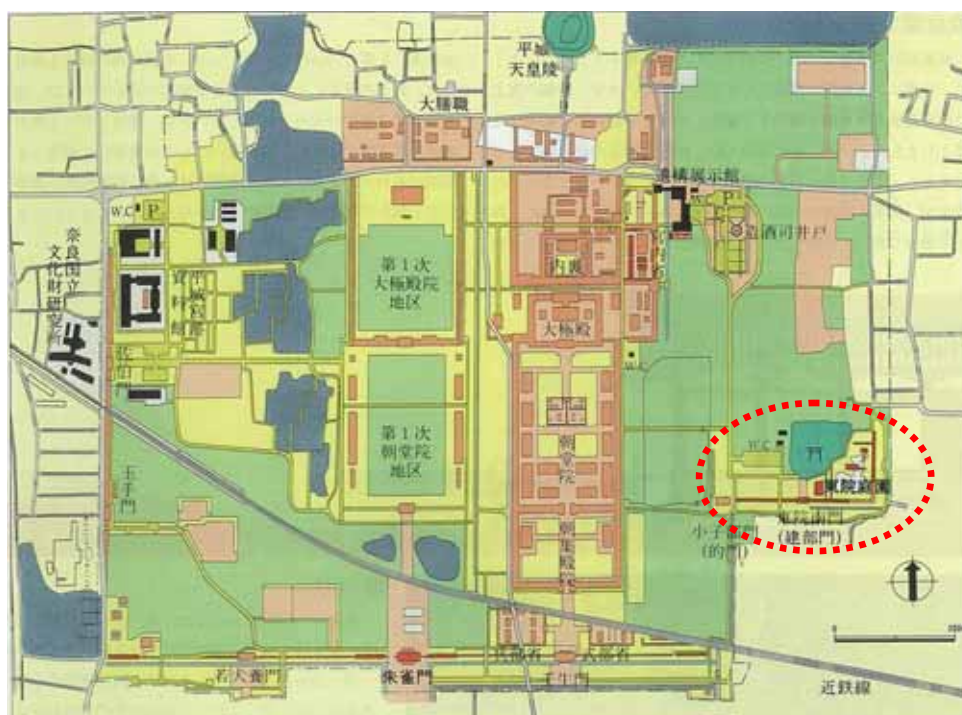


図 I - 12 東院庭園の位置

1-1) 復原の経緯

東院庭園は 1993 年（H5 年）に整備事業がはじまり、1998 年（H10 年）に全ての庭園と建物が完成し、一般公開が開始された。

表 I - 3 平城宮東院庭園 調査・整備略年表

西暦	記事
1967 昭和42年	平城宮跡第44次調査（庭園南部の発掘調査）
1976 昭和51年	平城宮跡第99次調査（庭園中心部の発掘調査）
1978 昭和53年	平城宮跡第110次調査（庭園北部の発掘調査）
1980 昭和55年	平城宮跡第120次調査（庭園西部の発掘調査）
1993 平成5年	東院庭園整備事業開始 平城宮跡第243・245-1次調査（東院南西部の発掘調査）
1994 平成6年	平城宮跡第245-2次調査（池北側の発掘調査）
1995 平成7年	南面大垣西部・東面大垣北部完成 東院南門・北東建物完成
1996 平成8年	北側東西板塀完成 平城宮跡第271・276次調査（池の発掘調査）
1997 平成9年	中央建物・平橋・反橋完成 平城宮跡第280次調査（庭園南東部の発掘調査） 平城宮跡第284次調査（庭園南西部の発掘調査）
1998 平成10年	西建物・南北板塀2条・南面大垣延長部完成 庭園部分完成・南東隅飯園い完成 東院庭園一般公開開始